

平成31年度 公立小松大学入学者選抜試験  
一般入試（中期日程）試験問題

小論文

【国際文化交流学部】  
国際文化交流学科

（注意事項）

- 1 問題用紙は指示があるまで開いてはいけません。
- 2 問題用紙は本文4ページです。答案用紙は2枚です。
- 3 答案用紙の所定欄に受験番号を記入しなさい。
- 4 答えはすべて答案用紙の指定のところに、横書きで記入しなさい。
- 5 アルファベット文字や数字は、1マスに1字で記入しなさい。
- 6 字数制限のある解答については、句読点を1字と数えること。
- 7 試験終了後、問題用紙と下書き用紙は持ち帰ってください。

I 次の文章を読んで、以下の問いに答えなさい。

著作権の関係上、非公表としております。

(出典：日高敏隆「科学と神は必ずしも対立しない」『人間はどういう動物か』筑摩書房、2013年、175-179頁)

[問1] 下線部(A)に関して、筆者がどのように考える理由を、本文中に記された日本人とフランス人との対比を踏まえつつ200字以内で述べなさい。

[問2] 下線部(B)に関して、筆者がどのように考える理由を100字以内で述べなさい。

[問3] 下線部(C)に関して、筆者の意見に対するあなた自身の考えを、その理由を含めて300字以内で述べなさい。

II 次の文章を読んで、以下の問いに答えなさい。

**著作権の関係上、非公表としております。**

(出典：大森彌「田園回帰の意味するもの——共生の思想と地域の自治」大森彌・小田切徳美・藤山浩編著『世界の田園回帰——11カ国の動向と日本の展望』農山漁村文化協会、2017年、14-15頁)

(注1) 創生法：2014年に成立した「まち・ひと・しごと創生法」(法律)のこと。一般に地方創生法ともいわれている。

(注2) 東京圏：東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県の1都3県を合わせた人口約3500万

人の区域のこと。

[問1] 下線部 \_\_\_\_\_ には「地方」の三つの字義が示されている。下線部 \_\_\_\_\_ にある四つの「地方」の単語は、三つが共通の同じ字義で、残る一つはそれと異なる字義で使われている。各々の字義を記述しなさい。

①三つの共通の字義

②残る一つの字義

[問2] 下線部 \_\_\_\_\_ の視点から、筆者が考える「地方創生」の人口政策と「地域創生」の人口政策との違いを200字以内で述べなさい。

[問3] なぜ、東京圏の若者たちが安心して結婚・妊娠・出産・子育てができないでいるのか。あなたの考えを300字以内で述べなさい。